

ぶらりわが街宮沢界限

(24) 養蚕(ようさん)・蚕種(さんしゅ)・製糸(せいし) — 11 — 蚕種の産出は東京一に

昭島市域の村は、江戸時代より養蚕が盛んに行われ、すでに明治時代から養蚕村として、聞こえており、大正期から昭和初期にかけて生糸価格の上昇に伴い最盛期を迎えました。

こうした「養蚕」・「蚕種」・「製糸」といった関係事業の中でも、とりわけ養蚕村として市域の名を高めたのは蚕種生産であった。

蚕種は江戸時代から明治初期ごろまでは、長野、群馬、栃木などから入っていた。その後、昭島市域でも蚕種製造が増加してきました。蚕病、特に微粒子病(びりゅうしびょう)に対しては厳しい検定(市域は東京府蚕業取締所(立川市錦町))があり、不合格は焼却処分となった。また、きょうそ病(蛆蛾(うじばえ)の卵による寄生虫の発生)の対策にも気を使い、蚕種の保管に富士山麓や浅間山の風穴も利用された。大正時代には冷蔵庫も使用し、さらに人口孵化に至った。市域で蚕種業が盛んだったのは、当時の北多摩郡一帯を中心に養蚕業が盛んで蚕種の需要も必然的に多く、蚕種業にとって宮沢、大神、中神を中心に立地条件に恵まれていたことである。理由は①風通しがよく蚕種に適していた。②桑畑が砂地のためか、蚕種業で致命的な「きょうそ」の被害が少なかったこと。③繭相場の変動が大きく、養蚕のみ経営が不安だったが、蚕種価格が常に安定し集中的同業集合が有利だったのが考えられる。

市域には〇〇館(宮沢村の例では、錦寿館(田村金十郎)・泰明館(森谷重次郎)・尽誠館(鈴木与三郎))など屋号をつけた蚕種業者が集中し、生産量は群を抜いていた。明治45年(1912)東京の蚕種業者が集まり、蚕種の品質向上・販路の拡張を目的に「東京蚕種組合」が設立し、創設委員22名のうち市域から7名(伊藤彦三郎・田村金次郎(宮沢)石川国太郎・志茂芳候(大神)村田金蔵(田中)紅林(くればやし)七五郎(郷地)榎本亀太郎(拝島))が参加し、このころには、東京蚕種業界において市域がいかにも高い位置にあったかをよく示している。

蚕種紙(たねがみ(産卵紙)一蚕の卵を生みつける小画用紙ほどのもの。明治33年(1900)以隣、微粒子病予防検査のため28銭(がわく)になった)一枚1円80銭から2円ほどで、一万枚、二万枚という金額はサラリーマンの月給40~50円の時代、大変な現金収入でした。しかし、昭和4年(1929)世界恐慌以降の不況、戦争の影響で生糸の輸出が無くなり、採算がとれなくなり、昭和14年(1939)ごろには市域の業者は自然消滅してしまい、軍需産業等に転業に至ったのです。

武蔵蚕種、東京蚕種合名会社に加わっている個人は20名をこえているようである。

「大蚕種製造家一覧」のように東京府の1万枚以上生産した17名中、昭島市で9名を数えているのです。
大蚕種製造家一覧 東京都蚕糸業史より

東京府順位	全国順位	製造枚数	所在地	名称
1	34	49,161	北多摩郡中神村(昭島市)	東京蚕種合名会社
2	65	28,838	西多摩郡福生村(福生市)	高崎 治平
3	97	23,176	北多摩郡小平村(小平市)	佐藤 弥十郎
4	110	21,803	北多摩郡宮沢村(昭島市)	武蔵蚕種合名会社
5	143	18,728	北多摩郡配島村(昭島市)	榎本 亀太郎
6	162	17,010	北多摩郡配島村(昭島市)	紅林 七五郎
7	180	15,817	北多摩郡配島村(昭島市)	田村 金十郎
8	194	15,139	西多摩郡多西村(あきる野市)	小林 作蔵
9	197	15,041	西多摩郡東秋留村(あきる野市)	竹中蚕種合名会社
10	213	14,549	北多摩郡宮沢村(昭島市)	森谷 重次郎
11	296	12,122	北多摩郡宮沢村(昭島市)	小町 米吉
12	302	12,029	西多摩郡西多摩村(羽村市)	小作 八太郎
13	331	11,459	西多摩郡西多摩村(羽村市)	並木 新助
14	334	11,437	北多摩郡大神村(昭島市)	石川 松太郎
15	388	10,349	北多摩郡東村山村(東村山市)	比留間 喜一郎
16	395	10,222	北多摩郡宮沢村(昭島市)	鈴木 与三郎
17	398	10,115	北多摩郡立川村(立川市)	吉沢 善助

[注] 大正13年度・10,000以上製造・東京分

この蚕種製造家を府県別に集計してみると、東京は17名で全国8位である。

愛知	50	静岡	21	福島	11	その他	
長野	40	群馬	19	山形	10	29県で104	
岐阜	38	東京	17	朝鮮	10		
愛媛	23	京都	16	奈良	10		
三重	23	熊本	13	和歌山	9	計(44県)	414

大正8年蚕種製造量

	春 框製	秋 框製
中神村	14,415	34,616
大神村	23,657	56,881
宮沢村	23,935	44,602
福島村	10,021	16,604
上川原村	2,051	11,862
田中村	6,377	19,820
拝島村	5,279	8,349
計	85,735	192,734
北多摩郡	160,986	304,873

東京蚕種時報
石川善太郎家文書より作成

記

昭島市域の蚕種業最盛期であったころの大正8年(1919)の例(左記表参照)東京府蚕業同業組合加入総数221名、内、北多摩郡100名、市域56名(昭和4年8現在(1929))北多摩郡で生産された蚕種量のうち春期の53%、秋期の63%は市域で生産されたものであって、そして、それはまた東京府の蚕種産出量の約3分の1を市域で占めていたことを物語っていた。

防犯宮沢支部会計 西山 禎一



蚕種紙(たねがみし)種紙には、化性、品質、記号、製造年月日、氏名を記入する。28区分のものほか、平付(区分なし)があった。